



長崎大学学報

第663号

幕末・明治期 日本古写真コレクション



日本レトロフォーカス⁽²¹⁾ - ノ瀬川にかかる阿弥陀橋と高麗橋 -

12

平成16年

表紙写真説明

日本レトロフォーカス⁽²¹⁾ - 一ノ瀬川にかかる阿弥陀橋と高麗橋 -

長崎大学附属図書館所蔵

写真 [15 - 33]

サイズ：縦9.0cm × 横13.6cm

モノクロに彩色

中島川の上流である一ノ瀬川に架かる石橋で、手前が阿弥陀橋、奥に見えているのが高麗橋である。カメラを河床に据えて、上流から下流方向へむけて撮影したもの。

撮影者は未詳だが、この小型アルバムには内田九一の写真が多く見うけられることから九一系とみてよい。撮影年代は慶応2年ごろであろう。

『長崎名勝図絵』には長崎橋梁の第一橋としてあげ、つぎのように記す。

鎮治^{ちんじ}の東八幡町^{やはたまち}の旁^{かたはら}に在^{あつ}て一瀬川^{またが}に跨る。其の傍に弥陀^{みだ}の仏像^{そのやまぜんじ}を奉ず。名づけて極楽橋とし、又呼で阿弥陀橋と云う。元禄三年十一月園山善爾建つ銘あり。

元禄3年（1690）泉州堺の商人で唐貿易で財をなした園山善爾が寄進して架けた石橋である。写真の右手の朱色に着彩されているのが阿弥陀堂である。向かって左手は八幡神社のある上の道筋。右手は伊勢町側で中島聖堂などがあり、新大工町には上野彦馬の撮影局があった。

橋の下にのぞいている高麗橋は伊勢宮神社の前にかかる石橋で、承応元年（1652）に明平江府の唐商が架けたという説（『長崎名勝図絵』）、あるいは伊勢宮神社の惣町の寄進などの説がある。その後何度かの洪水で壊れたり流失したりで、慶応2年（1866）4月、麹屋町の池島正助が私費を投じて架け替えた。しかし、翌慶応3年5月12日、市中は大洪水に見舞われ、人家はもちろん、中島川流域の石橋も多くが流失した。

当時、上野彦馬邸に寄宿して医学を学んでいた長井長義（1845 - 1929）は『瓊浦日抄』5月13日の条につぎのように記している。

昨夜来の雨止まず。洪水上野門前の川道に乗り、路堀で往来も難仕程の事なり。此の下流に添いたる町は此の上二尺余、量其の余の什物尽く濡し或いは流失し、真に去秋の洪水の如し。（中略）此の川筋の橋三ツ、枝川の橋一つ、内一つ浜の町大橋等なり。枝川の橋も石橋なり。四ツ共落ちたり。

さらに昭和57年（1982）7月23日の長崎大水害で破壊され、新しく架けられた。もとの高麗橋は西山ダムの下流に元の石材を用いて架け替えられている。

アルバム

表紙：木製、黒の漆地に金泥の漆絵。蓮の花に鶴の図。

サイズ：縦13.8cm × 横18.2cm

台紙：25枚、写真50葉。長崎の風景7枚の他、神戸・京都・鎌倉・横浜・東京・日光・箱根など各地の風景写真25枚、風俗写真25枚を収める。

長 崎 大 学 学 報

平成16年12月 1 日 第663号

編集発行

長崎大学総務部総務課

〒852-8521 長崎市文教町 1 番14号

☎ (095) 819 - 2014

